

令和6年度

# 横手食育見聞録 優秀作品集

市内小学校5年生が、  
ふだん農業に対して思っている  
ことを作文、図画にしたものです。  
ぜひとも、子どもたちの純粋な  
気持ちを感じてみませんか。

## 目次 (Contents)

食農教育の推進に向けて	
作文の部	
最優秀賞	・・・ P 1
優秀賞	・・・ P 2 ~ 6
図画の部	・・・ P 7



横手市農業委員会

食農教育の推進に向けて

### 横手市農業委員会

横手市農業委員会では、多様な農業情勢に対応するため、三つの小委員会を設置しています。その中の、広報・食農推進委員会では、食育教育に必要な情報提供活動や、地域における実践活動を推進しており、その一環として、教育委員会と連携し、「横手食育見聞録作文・図画コンクール」を平成十八年から継続して実施しております。

今回で十九回目となるこのコンクールは、小学生が生涯を通じた健全な食生活を実現するため、農業体験等で感じたことを図画や作文として表現することで、自らの「食」と「農」について考える習慣を身につけ、その習慣を大切に作る気持ちを育むために実施しております。

また、「総合的な学習の時間」等において農業に関

する学習を実践している小学校五年生を対象に「農業体験をして得たこと」「農産物を通じた家族とのコミュニケーション」等を作文、図画にしていたいただき、優秀作品については表彰するとともに、広報誌「横手市農業委員会だより」や横手市ウェブサイトへの掲載、横手市内の公共施設にて展示するなど広く公開し、市民に食育の重要性を働きかけてまいりました。

今回、応募作品が作文の部で九六点、図画の部で二三点あり、審査の結果、作文の部で最優秀賞一点、優秀賞五点、図画の部で最優秀賞一点、優秀賞五点が決定したところです。

この作品集を通して、小学生の視点から見た農業に対する思いを感じ、家庭における規則正しい食生活が大切であることを、今一度考える機会として、お役に立てられれば幸いです。

## 最優秀賞

「農業体験を通して」

吉田小学校 佐藤 緒音 さとう おと

六月、地元農家さん達の指どうで田植え体験をしました。どろに足をとられ、前かがみの姿勢で苗を植える動作でこしがいたくなりました。おいしいお米に育ってほしいと願いながら苗を植えました。通学の行き帰りで田んぼの横を通る時、稲のせたけが高くなってきたことがわかり、うれしく思いました。強い雨風の日には、稲の様子が心配でした。

十月、いよいよ稲刈りの日。田んぼ一面きれいな黄色のじゅうたんをしようにかがやいています。きれいだなあと見とれました。稲ほに近づいてみると、一粒一粒がばんばんに育っています。無事に収穫の日をむかえることができうれしかったです。ほっとしました。手作業での稲刈りが始まりました。夏のはじまりのころ、緑で細かった苗が田んぼの栄養ときれいな水、この日までの農家さんの苦労のおかげでこんなに元気な稲に育ったのだなと感じて、ていねいに収穫しました。かまで稲

刈りをしました。私の手で一度につかめる稲は少しです。かまで刈り取る時も力が必要でした。ふり返ると、まだまだ刈り取る稲があります。機械化されていない頃、田植え、稲刈りを体験してみてもほんの少しですが、苦勞を知りました。

十二月、収穫した新米を家庭科の授業で炊き、おにぎりを作って食べました。自分で植えて稲刈りをし、炊いたお米の味は特別おいしく、いつもより沢山食べました。お米作りの大変さ、楽しさ、よろこびを感じた気持ちは、わすれないと思います。どんな食べ物でも、その向こうにある多くの農家さんの思いを感じとってありがたく、いただきたいと思っています。



## 優秀賞

「農作物に感謝の気持ちを！」

旭小学校

佐藤 さとう

結心 ゆいこ

ぼくは学校の理科の時間に使った米の種を家の植木鉢で育ててみたことがあります。発芽してから、植木鉢を、もつと大きなものに植え変えました。するとぐんぐん成長しました。しかし、結果的にかれてしまいました。この経験をしてぼくは、農作物を育てるのは簡単なことではないということ学びました。農家の方々はそんな大変なことをやっています。と思いました。

保育園のころ、ぼくは「雪の下ニンジン」を食べたことがあります。当時は何も思わず食べましたが今になると、農家の方のすごさがわかります。冬は農業をできない時期に感じますが、冬の寒い中苦労して、みんなに食べさせたい思いで作られたものだと、今ならわかります。農家の方は、やっぱりすごいです。

ぼくのじいちゃんも農家をしていて、田んぼや畑をやっています。休みの日にじいちゃんばあちゃんの家へ行くと、二人は朝から田んぼや畑に行つて、お昼にな

つても帰つてこないで、ずっと畑仕事をしていることでもあります。夏休みには、じいちゃんは仕事に行つて、ばあちゃんは田んぼや畑に行きます。じいちゃんも、仕事から帰つてくるとすぐに軽トラックで田んぼや畑に行つて、夜まで帰つてこないで畑仕事をしています。たまにみんなで買い物に行くこともあるけれど、それはたまにで、本当に毎日畑仕事をがんばっています。つまり、農家の方は休む日もなく農業に励んでいるということです。そんなすがたを近くで見ていると、農作物を食べることは簡単なことではないと気づかされました。

野菜や果物を作つてくださる農家の方の大変さやすごさと、農作物を食べられることへの感謝の気持ちを忘れずに生活したいし、みんなにしてほしいと思います。農作物に感謝の気持ちを！



優秀賞

「毎日の食に感謝を」

旭小学校 千葉 空

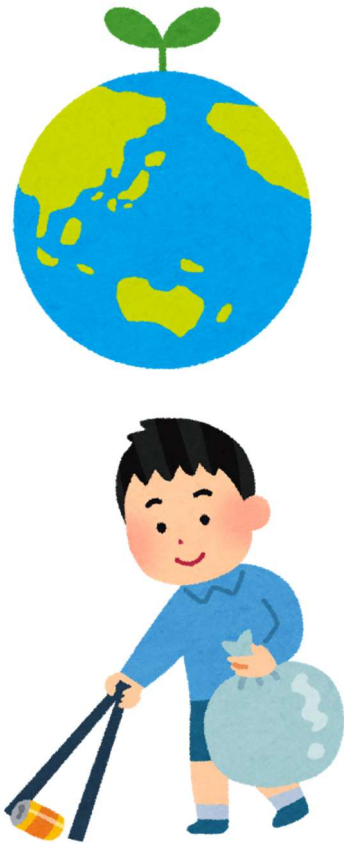
ぼくは、ふだん食べているすべての食べ物に感謝しています。理由は、すべての食べ物にたくさんのお人の思いが詰まっているからです。一食一食に、たくさんのお人が関わっていると思います。

料理には必ず作ってくれる人がいます。家ではお母さん、学校では調理員さん、お店では職人さんが作ってくれています。お母さんは仕事がいそがしい中、毎日おいしい料理を作ってくれます。調理員さんや職人さんは、いろいろな修行や試験をクリアして、みんなを笑顔にするために作ってくれているのだと思います。作る人がいなければ料理は食べられません。また、作られた料理の中には、肉や魚、野菜や果物などたくさんのお食材が使われています。どれも自然の命をいただいているものです。食べるために、動物や農作物を育てる人やとる人がいます。作る人がいても、食材がなければ食べる事ができません。命にも、そこに関わっている人にも

感謝したいです。

感謝の気持ちをもつことだけでなく、ぼくたちでできることもたくさんあると思います。例えば、動物や農作物の育つ自然環境を守ることです。自然環境を守ることが、結果的にぼくたちの暮らしを豊かにすることにつながります。ゴミひろいをする 것도、自然環境を守る行動です。また、関わっている人の思いや命をむだにしないために、食べ物を残さないことも大切だと思います。食べ物を残さないことは食品ロスを減らすことにもつながります。そうすると、自然環境を守ることができません。お金がなかったり、戦争中だったりして、何も食べられない人も世界にはたくさんいるので、食べられることに感謝をして、残さず食べたいです。

これらのことから、毎日の食に感謝して食べるべきだと思います。毎日当たり前と思わず、感謝していただきます。



優秀賞

「私をつくる食べ物」

雄物川小学校 菊地 結衣（1組）

私は、今回この作文を書くにあたり、自分の家の食べ物について考えてみました。すると、多くの食べ物を祖母や両親が育てていることが分かりました。

毎年、春から夏にはニラやアスパラ、きゅうり、トマト、オクラ、枝豆、じゃがいもなどが穫れ、食卓にならびます。穫れたてのきゅうりは、とてもみずみずしく、なにもつけなくてもおいしいです。枝豆やトマトは、そのまま食べるだけでなく、さやをとって冷凍したり、トマトソースにしたりして、旬をすぎてもおいしく食べられるようにしています。

秋が近づくと、白菜やネギ、大根、里芋などの出番です。いものこ汁やなべもので大活やくの野菜たちです。また、祖母は、大根やばしようにつけ物にしてくれるので、冬中おいしく食べられます。祖母はみそもつくって売っていて、毎日食べるみそ汁などに使っています。改めて考えてみると、家の食卓には祖母や両親が育て

た食べ物が多くなっていることが分かりました。いつも何気なく食べていた食べ物ですが、両親が仕事の合間をぬって育てたり、祖母がこまめに畑に行って、収穫してくれたりしたものだと思うと、感謝の気持ちがいってきました。私が元気に成長できたのは、祖母や両親が家族のために安全でおいしい食べ物を作って食べさせてくれたおかげです。今までは、少し収穫をするだけでしたが、これからはもっと手伝いたいと思いました。春になったら畑の草とりをして、種まきからやってみようと思います。





「伝えたいな感謝の気持ち」

雄物川小学校 成田 なりた 采羅 さら

五年生になってから、農業の学習をする機会が増えました。これまで、鉢でトマトやピーマンを育てたり、スイカの生育を学んだりしたことはありませんでしたが、四季を通じて稲作の過程を学び、実際に田植えや稲刈りを体験したのは初めてでした。それにより、今までに感じたことのない思いを抱きました。

まず一番強く感じるのは、感謝の気持ちです。農作業は時間もかかるし、何よりも体力が必要だということがよくわかりました。今は機械が発達していて、効率よく作業が行われていますが、とてつもなく広大な水田に、手作業で苗を植えることは、私にとっては目がくらむ労働でした。それに加えて、水田の泥の感触は気持ち悪く、あまりいい印象を持つことはできませんでした。

また、育った稲を刈り取る作業も、かまの扱いに苦労してうまく刈ることができなかつたし、花粉症の私にとっては、鼻がムズムズしてつらい時間となりました。

ご飯は毎日食べるものなのに、今までは特に何も感じたことはありませんでしたが、農家の皆さんが、どれだ

け大変な思いをして私たちの食卓にお米を届けてくれているか、ということがよくわかりました。心から感謝の気持ちを伝えたいと思うようになりました。

一生けん命育てて収かくしたお米は、ふっくらしてとてももちもちとした食感で、こんなにおいしいご飯は食べたことがないと思うくらいおいしかったです。それはきっと、農作業の大変さが分かったからこそ、より一そうおいしく感じられたのだと思います。丹精込めて作ったお米は、お腹だけでなく心をも満たし、私は幸せな気持ちになりました。

今、農業は気候変動やフードロスなど、様々な課題に直面しています。これらの課題解決のために、自分たちにできることを考え、行動に移していきたいと思いません。



優秀賞

「おばあちゃんが教えてくれたこと」

十文字小学校

佐藤 さとう

峰禎 みねさだ

「みそ汁と野菜もちやんとね」  
ご飯と卵だけで朝ごはんを食べようとする僕におばあちゃんがよく言っていました。

朝は眠いけれど、おばあちゃんが作ったみそ汁と野菜いためを食べてみたら一日頑張れそうな気持ちになって、パワーがわいてきました。その後学校に行くと、沢山手をあげて発表しようとする気持ちになったり、友達とも思いつきり遊んだりすることができました。朝ご飯のメニューを少し意識するだけで、一日の気持ちがあんなに変わるのかと思いました。そのころから僕の家の朝ごはんはご飯、卵、みそ汁、野菜いためが定番になって、僕にとっても一番落ち着くメニューとなりました。お母さんが早い仕事で作れない時は、おばあちゃんが代わりに一生けんめい作ってくれていました。

ご飯はエネルギー。卵は体を作るたんぱく質。みそ汁は体によくてかぜをひかない。野菜は、ビタミンいっぱい



いであかむときの音が頭にいい。と教えてくれたのはおばあちゃんでした。そんなおばあちゃんが去年の年末に天国に行ってしまった。  
きつとパンやご飯だけでも過ごせるかもしれませんが、僕はおばあちゃんが教えてくれた食べ物の役割の大切さをこの先ずっと忘れないでいようと思います。  
いつか僕も自炊をする時が来るかもしれません。その時はおばあちゃんが言っていたことを思い出して、みそ汁も野菜もちやんと食べて、天国にいるおばあちゃんがいつまでもにっこり笑って、安心していられるようにしたいです。



# 第19回横手食育見聞録図画コンクール優秀作品



【最優秀賞】醍醐小学校 いしかわ 石川 いち果 か 「ちょっとひといき」



「ばあちゃん家のリンゴ」

【優秀賞】栄小学校 おがさわら 小笠原 みらい 未来



「自分でつくったおいしいお米」

【優秀賞】吉田小学校 かわさき 川崎 みら 美蘭



「いねかりのごほうび」

【優秀賞】雄物川小学校 すずき 鈴木 そうすけ 奏介



「コンバイン」

【優秀賞】十文字小学校 たかはし 高橋 あいり 愛玲



「みんなでスイカしゅうかく」

【優秀賞】雄物川小学校 きくち 菊地 ゆい 結衣(2組)